図書館通信 1月

教室掲示

土浦湖北高校図書館

新しい年が始まりました。
新年の抱負を立てて、心機一転、がんばるぞ!と気合いを入れた人もいるのではないでしょうか。
「一年の計は元旦にあり」といいます
自分にとって今年1年間をどのような年にしたいのか、年の初めにじっくり考えてみてください。
今年が皆さんにとって良い年となることを祈っています。

図書館利用案内

・ 開館時間　8:30～16:45　・ 貸出冊数　一回　5冊まで　・ 貸出期間　2週間

図書館からのお知らせ

1月13日（火）に茨城新聞社の平野有紀様、小岩泰規様にお越しいただき、
図書委員を対象に出前授業が行われました。
「ライオンが逃げたぞ」というテーマで、様々な情報を手がかりに「号外」を作るワークに取り組み、
情報とどう向き合うべきか話し合いました。有意義な授業となりました。

公的機関の情報を確認すべきだ!

発信源のアカウントを確認した方がいい!

図書委員のおすすめ本

今月は1年生の図書委員より推し本をご紹介します!

青柳 碧人『むかしむかしあるところに、死体がありました』（双葉社）
この作品は有名な昔話の世界で事件が起こるミステリー短編集です。知っている物語だからこそ読みやすく、とてもテンポよく楽しめる意外性のすごい一冊です。
ぜひ皆さんも読んでみてください!

夕木 春央『方舟』（講談社）
密閉された極限状況の中で、人は何を信じ、誰を選ぶのかを突きつけられる物語だった。合理性と感情、正義と自己保身がせめぎ合い、読み進めるほど判断が揺らぐ。読後、自分ならどう判断するかを長く考えさせられる一冊。

第174回 芥川賞・直木賞 発表

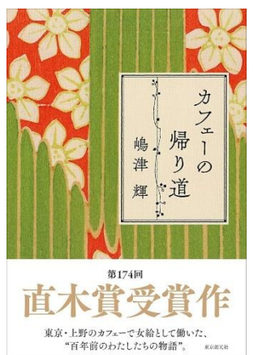
芥川賞 鳥山まこと『時の家』（講談社）

鳥山さんは小説家であり、建築士です。自ら自宅を設計し、その経験を元にこの作品を書いたそうです。取り壊しが予定される一軒家に暮らした三世代のかけがえのない日々が描かれています。

芥川賞 畠山丑雄『叫び』（新潮社）

畠山さんは初めて候補に挙がった本作品で芥川賞を射止めました。
さて、畠山さんの「丑雄」という名前の由来となった手紙をご紹介します。49歳の夏目漱石が若き芥川龍之介に送ったものです。畠山さんは、受賞者記者会見で
「名前のおかげである意味開き直って、文芸業界のトレンドをあまり気にせずに、自分の書きたいものを書いてこられたかなとおもいます」とおっしゃっていました。

「牛になる事がどうしても必要です。われわれはとかく馬になりたがるが、牛にはなかなかなり切れないです。～中略～あせっては不可（いけま）せん。根気ずくでお出なさい。世の中は根気の前に頭を下げる事を知っていますが、火花の前には一瞬の記憶しか与えてくれません。…」

直木賞 嶋津輝『カフェーの帰り道』（東京創元社）

大正から昭和の東京・上野にある「カフェー西行」を舞台に、激動の時代に女給たちが自らの道を模索し、たくましく生きる姿を描いた短編集です。
選考委員の宮部みゆきさんは「登場人物がみんな魅力的。すべてのバランスがが良く、連絡短編のつなげ方もやりすぎず、非常に品がいい。読んでいる人を幸せにしてくれるいい作家で、満場一致の受賞でした」と絶賛していました。